

企業名：NJS（2325）

レポート名：統合報告書2022

1. この企業が目指している将来の姿が理解できるか

まず当社の中長期的な経営方針としては、環境先進企業を目指す、水と環境のソリューションパートナーとしての機能強化、新事業を創出する、の三つがあり、その目標を達成するための具体的な施策が三つある。はじめに、イノベーションだ。これは変化が速くスピードが求められる事業環境に対して、ニーズに基づく確かな技術開発と多様な分野との協働により、革新的な技術の創出と企業価値の向上のことであり、多様な分野との協働による革新的の促進（アライアンス）、M&AによるNJSグループの総合展開力の強化（M&A）、領域の拡大と多様な連携に対応したビジネスモデルの構築、BIM/CIMによる業務プロセス改革とインフラマネジメント改革の五つの具体策によって実現する予定である。次に働き方改革だ。これは働く環境の変化に対応して、生産性・創造性・品質の向上を図るほか、多様な人材が多様な働き方ができる、働きやすく、働きがいがある職場をつくっていくことが目的だ。デジタル技術の活用と非接触型作業による感染対策の徹底、育児や介護など個人のニーズを含めた多様な働き方の受容、多様な働き方に対応した人事制度の整備と自律的な働き方の醸成、テレワークやウェブ会議に対応したオフィス環境の整備、デジタル化時代に対応した健康経営と品質管理の推進の五つが具体的な内容だ。最後に人材育成である。これはパンデミックと気候危機の時代にあって、環境問題に取り組むNJSのイメージを鮮明にして、NJSグループ一体で積極的な人材確保と育成することが目標だ。環境先進企業の企業カラーを明確にした採用活動の強化、女性、外国人、異業種を含めた多様な人材の採用強化、オフィス環境の変化に対応した効率的な人材育成の推進、業務領域の多様化と役割・機能の変化に対応した人材の育成、国内外の業務をシームレスに対応するグローバル人材の育成の五つが具体的な施策の内容である。以上がNJSの中長期的な目標と、それを実現するための具体策である。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

当社の競争優位性には大きく分けて四つある。第一に、海外の上下水道の設計および水と環境のコンサルタント事業だ。海外実務実績は90か国以上であり、アフリカ、中近東、アジア、中南米などの発展途上国が多く存在し、環境整備がなされていない国を中心として実務実績が豊富である。また、浄水場実績は300か所以上、下水処理場実績は600か所以上にわたる。第二に、ソフトウェアの開発・販売・運用支援事業だ。経営から施設管理まで12システムが可能であり、ユーザー都市数は260都市となっている。第三に、上下水道等の運営および業務オペレーション事業だ。包括的民間委託、コンセッションを行っており、オ

ペレーションサービスは約 100 都市にわたる。最後に、各種インフラの点検調査・診断サービス事業だ。世界初の管路内点検ドローンと世界初の水上走行ドローンを駆使して点検調査を行っている。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

水と環境は人間が生活をする上で必須となってくるものであり、この事業自体の存在自体が非常に価値のあるものである。また、特に当社がコンサルタントをしている発展途上国では生活用水は特に重要であるので、前述の競争優位性は他の企業が簡単に打開できるものではないと感じる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

NJS では、従来の研修メニューに加えてリーダーシップを養成する管理職研修、事業環境の変化や 70 歳定年を踏まえたスキル学び直し研修の充実を図っている。建設から維持管理の時代への転換、事業課題の多様化に対応し、業務領域の拡大を図っていくためには、継続的なスキル習得が欠かせない。NJS は、新入社員から中堅社員まで、幅広いニーズに対応した研修を実施している。また、トラブル事例研究、管理職研修、OJT トレーナー研修など、マネジメントに関する研修にも力を入れている。技術士などの資格取得をサポートするほか、研究発表会などへの参加・発表を奨励している。コロナ禍においては、e ラーニングやオンライン講座を活用して学ぶ機会の確保と生産性向上を図っている。NJS は人材の多様なニーズに対応するとともに、専門人材の育成と確保を図るため、複線型の人事制度、役割・責任・成果に応じた処遇制度を導入している。期待される役割と貢献度に応じて、マネジメント (M 職)、エキスパート (E 職)、プロフェッショナル (C 職)、アソシエイト (A 職) の 4 職群を設けている。そのため、人材育成や処遇も非常に満足度の高いものとなっているのでこの会社で私の人的資本の価値向上は十分に達成できると思う。

5. 報告書の良かった点はどこか、どのような改善余地があるか

この報告書は色合いも非常に見やすく、要所要所で説明をわかりやすくする写真なども添付されており、初めて見る人でも理解のしやすいものとなっていた。